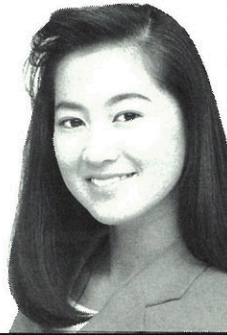


ふれあいと

対話が築く

明るい社会

そこで、
あきらめちゃ だめ!



第46回“社会を明るくする運動”
主唱：法務省

今月は“社会を明るくする運動”の強調月間です。この運動は、すべての国民が、犯罪の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

町でも、この運動の一環として小・中学生の皆さんによる文集“ひだまり”が発行されました。その中から、次の二作品を紹介します。

作品を通してそれぞれの思いをくみとっていただき、皆さんとともに温かい家庭づくり、地域の和づくり、心のかよう町づくりを目ざしてお互い手をたずさえていきましょう。

なお、作品は現在の学年で紹介してあります。

7月1日～31日

第46回 “社会を明るくする運動”

主唱：法務省

なくしたい
「言葉の暴力」

神田小 六年

下村 麻衣



「うるせえな、デブ。」
同じクラスで、ちよっと太りぎみの男の子が、ふざけている時に、言われていました。太りぎみの男の子は、とても深く傷ついたようで何も言葉が返せなくなっていました。また、少し身長が低い同じクラスの男の子が、低学年の人から、
「チビ。」
と言われていました。どうしようもないことを言われて男の子は、ショックでたまらなかつたと思います。

私達のクラスでは、人と人がけんかをした時にこういう言葉を時々聞きます。ちよつとむかついたからといって人の体について傷つく言葉を言う人がいます。私は、その言葉を聞くにつらい気持ちになります。私もそんな言葉を言われた経験があります。小学校四年生の時に、ある男の子が、他人の体の悪口を言っていました。それを見て私は、
「そんなことを言っちゃあいけんよ。」
と注意しました。すると逆に、
「お前、チビじゃあや。」
と、言われてしまいました。

正しい事を言った自分まで言われて、なみだが出ました。人には、その人なりの生き

方があります。生まれ持った体の事に対して、文句を言う人を私はゆるせません。小さければ小さいなりに、大きければ大きいなりに、その人の「よさ」があるとあります。そのよさを大切にしてほしいのです。

私は人の傷つく事を言う人
に、
「いじわるをしたらだめだよ。」
と注意し続けます。もし自分が言われても、人の「よさ」をわすれないようにしていきたいと思えます。

いじめのニュースをよく聞きます。体の事からかわれたりしていじめられ、自殺までおいこまれた人もいます。人の命は一つしかありません。こんな言葉による被害を受けた人の事を考えてあげなくてはいけないと思います。だから、今の私にできる事は、知らず知らずに人を傷つけてしまっている小さいいじめから、少しずつ解決して、友達といつまでも話し合うように努力したいです。みんなと協力して、いじめ防止をいろんな人に呼びかけようと思います。

